

NO	開催	委員意見	現状認識	課題解決の方向性	方向性実現のための手法及び課題
1	令和元年1回	<p>新総合計画のパブリックコメントを拝見したところ、自治会加入率も右肩下がりで、老人クラブの加入率も低下しています。障害者の社会参加は、67%が地域社会に参加していないというデータが出ていました。圏域ごとの課題としておそらく共通しているのが、地域の担い手。これはどの校区でもおそらく一緒だろうと思います。また若者とのマッチングですが、ある高校で授業をした際にお年寄りを看取ったことがある人を尋ねたところ、全クラス中たったひとりでした。このくらい、世代間が離れてしまっています。一方で老人クラブの加入率低下について、おそらく団塊の世代の方たちは老人クラブに加入されないと思います。だから老人クラブありきから脱却して、地域の中で世代間交流を図っていくためには、コミュニティセンターでは集まらないことを考えた時に、久留米市は地域密着型で各地域に介護事業所があります。せつかく地域密着型がある程度、学校圏域であるということで、居場所もしくはサロンとして、事業所が居場所に重なっていくことができると、久留米市独自の居場所づくりができます。事業所以外にも居場所づくりは本当に必要だと思っています。中心部は特にマンションの閉じ籠りが本当に増えていて、この間も、4トトラックで乗り切れないことがありました。これはごみがマンションの中に詰まっているということで、そういうことも進んでいます。一方で交通の問題、これはエリアごとで違うと思います。私は北野と城島の公共交通会議に入っていますが、とても工夫しながら頑張っていると思います。北野や城島エリアで頑張っている課題と、都心部では、車の免許返納で、郊外型のお店に買い物に行けなくなったという事情があるので、表と裏というところがあります。ある程度、課題は絞られていると思います。また、地域の縁が切れているので、地域の縁をコミュニティセンターではなく、どうやって居場所を作ったりするという課題と、それに事業所がうまく使えないかっていう話と、もしくは交通の問題に関しても大事ですし、もう一つ世代間交流で担い手を増やしていく、この辺がないと、なかなかこれだけ課題が複雑化してくると、たとえば事業所だけとか、包括だけとか、社協だけとかでは解決できないということを実感しています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会加入率低下</li> <li>・老人クラブ加入率低下</li> <li>・障害者の7割弱が地域社会に参加していない現状</li> <li>・地域の担い手不足</li> <li>・地域や世代間の関係性の希薄化</li> <li>・団塊の世代の老人クラブ未加入増加</li> <li>・中心部でのマンションの閉じこもりやゴミ屋敷の増加</li> <li>・地域の縁が切れている状況</li> <li>・高齢者が利用できる交通手段について</li> <li>・周辺部と中心部での状況の違い(都心部では、車の免許返納で郊外型の店に買い物に行けなくなったという事情、周辺部は交通手段・店の消滅といった課題)</li> <li>・地域課題の複雑化に伴い、事業所、包括、社協等が単独で課題解決する限界</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人クラブ等既存の仕組みから脱却した、地域の中の世代間交流を図る</li> <li>・地域の中で世代間交流を図るための居場所づくりの促進</li> <li>・世代間交流で担い手を増やしていく</li> </ul>	<p>【実現のための手法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護事業所等を活用した地域の居場所づくり</li> </ul>
2	令和元年1回	<p>いろんな職種、事業所や包括、医療関係者等が集まって、地域の課題を議論されています。やはり続けること、継続的に会って行うことが大事だと思います。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議や支えあい推進会議の継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議や支えあい推進会議の継続</li> </ul>
3	令和元年1回	<p>大牟田の場合は、月に1回、包括ごとに同様の会議をしています。その中で、困った事例等を持ち寄って、その中でだんだん地域としての課題が出てきています。同じ人が毎月集まり、先程の報告にあったように、参加者がどんどん変わるという話にはなりません。もし可能であれば、検討されてはどうかでしょうか。</p>			<p>【実現のための手法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議や支えあい推進会議のメンバーの固定化</li> </ul>
4	令和元年1回	<p>同じ顔触れは困難だと思います。データを必ず誰かが持っていて、利用してわかるようにしないといけない。同じ人がずっといる訳ではありません。同じ人たちが話し合ってもらうのが一番良いのですが、そうではなくても可能なシステムを作ることが大事です。それはたぶん包括がやっているのではないのでしょうか。自分たちで共有のソフト持って行っていく。それを市がバックアップして、続けていくことをやらないと。その方が効率的だと思います。</p>			<p>【実現のための手法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議や支えあい推進会議において、メンバーが変化した場合に対応する仕組みづくり</li> </ul>
5	令和元年1回	<p>報告があった課題は、支えあい推進会議で出ている課題とほとんど一緒です。社協では校区別にニーズを把握して、アンケート調査をしているので、もっと詳しくわかると思います。資料の提供はできます。事業者の課題として、民生委員や自治会と、地域の人とつながらないという報告がありました。一方で、地域では逆に事業所となかなかつながらない、ノウハウがありません。私たち社協職員もそこが弱いところであって、専門職は逆に包括が強いです。なので、お互いの強みを出し合いながら、それこそ縦割り行政を今できるだけ横串を刺そうとしているので、社協と包括と同じ地域づくりをしている仲間として、また保健師も地域づくりに着手しているので、久留米市として、団体と団体の横串を刺すとかですね。確かに支えあい推進会議には、保健師や包括も声掛けして出席してもらっていると思います。同じような課題なので、一緒にできないかと思えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議と支えあい推進会議の課題が同じ</li> <li>・社協において校区別ニーズを把握</li> <li>・介護事業者等と自治会や民生委員とのつながりが弱くノウハウがない</li> <li>・社協は介護事業者等専門職とのつながりが弱く、包括はつながりが強い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者に関わる社協や包括や市の保健師が現状の弱みを理解し、情報共有等をすすめる</li> </ul>	<p>【実施における課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議の課題と支えあい推進会議の課題の類似と会議の重複</li> <li>・地域において(介護の)専門の事業所とつながらない、ノウハウがない</li> </ul>
6	令和元年1回	<p>地域で統計を取ると課題が出てくると思います。私もグループホームという地域密着型サービスの事業をしており、是非、事業所を利用して、地域のコミュニティづくり、これは国が求めているところだと思います。だからこそ、地域密着型サービスという位置づけにしていると思っています。久留米市には事業者を利用してほしいです。次に、解決できない課題の一つに、事業所によって参加者が毎回違うことがありました。これは、やはり介護職員が少なく、どこも職員の不足し、参加したくても出来ないという実情もあるのではないのでしょうか。あと、地域防災計画と事業所の避難計画の連動が不十分という項目に対して、他の地域ではどうかという検証はされたのでしょうか。他の地域も同じ課題を持っているのか、地域によって解決方法が違う、また解決できたとしたら、他の地域にも同様にできるのでしょうか。また、団塊の世代の人が老人会などへ参加しないという話に関連して、私も事業として認知症の方を15年預かっている中で、認知症の方本人も変わってきています。ご家族も考え方が変わってきています。今の80代90代の方は、何かしてあげると「ありがとね。ごめんね」という言葉で返ってきます。しかし、今後、団塊の世代、契約社会の高度経済成長を経験されている方が高齢者になる。そういう中で、地域づくりを今後どうしていくべきか、考えていく必要があると思っています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国も介護事業所を活用した地域づくりを求めている</li> <li>・地域ケア会議等の参加者が固定できないのは、介護事業所の職員不足の影響もある</li> <li>・地域防災計画と介護事業所の避難計画の連動について、検証・分析が未実施</li> <li>・認知症の当事者や家族の考え方が変化している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災計画と介護事業所の避難計画の連動について検証の必要性</li> </ul>	<p>【実現のための手法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護事業所等を活用した、コミュニティづくりの推進</li> </ul> <p>【実施における課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議等の参加者が固定できないのは、介護事業所の職員不足の影響もある</li> <li>・地域防災計画と介護事業所の避難計画の連動について、検証・分析が未実施</li> </ul>

NO	開催	委員意見	現状認識	課題解決の方向性	方向性実現のための手法及び課題
7	令和元年1回	<p>世代間交流ではありませんが、私は地域密着型の看護多機能を運営していて、地域密着型である以上、地域と交流しなければいけないと常々思っていますが、ノウハウがよくわかっていません。ずっとやらなくてはいけないと思っています。成功しているところがあれば、方法などを教えてもらえると、事業所としては利用してもらいたい。</p> <p>是非交流の場としても提供したいし、外に出て行きたいという気持ちはあるのですが、ノウハウを開拓する時間がなかなか取れません。</p> <p>介護スタッフが少ない中で、管理者も一緒になって働いている状態で、会議に行く時間もとれないし、事業所としてやらないといけないことが、だんだんおざなりになっているような現状です。</p> <p>例えば、事業所としては消防訓練を年2回やっており、地域の方と一緒に訓練を行いたいと思っています。しかし、どうしたら繋がるのかわかりません。</p> <p>だから、教えてもらえると事業所は助かると思います。</p> <p>また、久留米市に多くの介護事業所があるので、事業所を活用すると、コミュニティを立ち上げなくても、その場を何に利用するか具体的には思いつきませんが、考えられるのではないのでしょうか。また、今からの高齢者は、変わってくると思います。私のいる西町は比較的自分の趣味を突き詰める方が多くて、集まるよりも、自分の楽しみを自分で見つけていく、だから集まることだけがいいことなのかと思ったりします。そこは地域性があると思うので、校区の特徴等を見つけて、皆同じようにサロンやコミュニティを作るのがいいとは必ずしも思いません。</p> <p>元気で自分がやりたいことを見つけて、どんどんやれる人が多いところは、そういうところをもっと伸ばせるような何かを提案するのもあるのかなと思います。</p> <p>西町の民生委員等に対して、事業所の催し物の案内をしますが、なかなか来てもらえないので理由を尋ねてみました。すると、それぞれ皆さんで好きなことをやっているの、催し物に行くよりも自分の好きなことをして、自分の時間を有意義に使いたい、自分たちで楽しみを見つけている方が多いのではという話でした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護事業所に地域交流のノウハウがない</li> <li>・介護事業所の消防訓練において地域の参加がない</li> <li>・高齢者は地域で集まるより、趣味など自分の楽しみを見つけていくことに意識が変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護事業所と地域との交流のノウハウの共有</li> <li>・校区の特徴をいかしたサロンやコミュニティをつくる</li> </ul>	<p>【実現のための手法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護事業所等を活用した、コミュニティづくりの推進</li> <li>・地域の特性に応じたインセンティブ等の提案の仕組みづくり</li> </ul> <p>【実施における課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護事業所の職員不足により地域活動に参加することが困難</li> </ul>
8	令和元年1回	<p>中央部も一緒です。しかし、講師として呼ぶと喜んで参加します。横浜ではベテランズという動きが始まっていて、ベテランの方たちが自分のノウハウを活かしましょうという発信をされています。自分のいいところを活かしたいという意思の方が強いのではないのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者は自分のいいところを活かして活動したい意識が高くなっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の特技やノウハウを活かした地域活動の仕組みをつくる</li> </ul>	
9	令和元年1回	<p>介護事業所が自分の地域にあるで、住民が安心しているのも事実だと思います。事業所があるから安心できる、何かあったときに相談できるかなというように、住民もそのような思いになるというのも事実かなと感じています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護事業所が住んでいる地域にあることで、何かあったとき相談できる安心感がある</li> </ul>		
10	令和元年1回	<p>事業所のイベントに来てもらい活動してもらおうとか、そういうことを喜んでする方もいるので、巻き込み方ではないのでしょうか。いかに世代間交流で巻き込んでいくかというところはあるかもしれないですね。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の特技やノウハウを活かした地域活動の仕組みをつくる</li> </ul>	
11	令和元年1回	<p>ベテランで、指導ということなら出てきてくれる方がいたら、巻き込んで教えていただく。小さい区域で教えてもらう中で、世代間交流をいかに作っていくのかというような地域づくりというはあるのかなと思います。</p> <p>私は、脳検診にずっと行っています。検診に毎年来る人で、認知機能が落ちない方に対して興味があり、「何かやっているのですか」って聞くと、認知機能が落ちない人は往々にして、ボランティアをやっていると言われます。ボランティアがいかにすごいのか、認知機能が落ちないためにいくらお金を使い、運動をしても、落ちるときは落ちますが、本当にボランティアをしていることと、人と交流するのはすごいこと。いいことだからボランティアしましょうみたいな合理的な考え方で話すと、今からの人たちは認知症になるのは怖いので、いい啓発になると思います。自分のためにボランティアしましょう、人のためではなくて、自分の認知機能を維持するためということは伝わるのではないのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知機能が落ちない高齢者はボランティア活動を行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の特技やノウハウを活かした地域活動の仕組みをつくる</li> </ul>	<p>【実現のための手法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動は認知機能を低下させないことにつながることを周知する</li> </ul>
12	令和元年1回	<p>維持はあるけど、将来的になります。だから、将来自分たちがなった時に担い手は誰なのかと言ったら、自分たちの年代。自分たちの将来を確保するために、自分たちでボランティアするというのが理想的な街だ、という意識を持ってもらうことは重要だと思います。</p>			<p>【実現のための手法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の将来のためにボランティア活動を行うという意識啓発を行う</li> </ul>
13	令和元年1回	<p>関連して、よかよか介護ボランティアについて、登録者は沢山いるのですが、介護保険の財源なので、介護施設しかボランティアができない。登録者の方と話をすると、もっとこんなことしたら、あんなことしたらと出てくると思います。高齢者に働いてもらっている民間企業もありますよね。確か認知症の方が洗車する事例があったと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よかよか介護ボランティアの活動範囲が介護事業所に限られるため活動する人が少ない</li> <li>・認知症の人が働いている事例がある</li> </ul>		<p>【実現のための手法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの活動場所を拡大する</li> <li>・認知症の人が働ける場を開拓する必要</li> </ul>
14	令和元年1回	<p>献立を覚えられないカフェ、認知症の方たちががされているカフェもあります。いかに認知症の人たちの力を利用しながら、介護施設等との連携を図りながら、地域、地域で場所がないってということだったら、そういうのもあるのかなってという感じですかね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人が働いている事例がある</li> </ul>		<p>【実現のための手法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の当事者が活動できる居場所づくり</li> </ul>

NO	開催	委員意見	現状認識	課題解決の方向性	方向性実現のための手法及び課題
15	令和2年 1回	複合的な課題をもっている世帯、家族だけでは解決できない課題をもっている世帯等報告があるが、①彼らが相談できる人や場所があるか、②あるとすれば、それを知っているか、③仮に相談できていたとすれば、解決に至らないのは、何が課題かについて検討する必要があるのではないか。	・複合的な課題を抱え、家族だけでは解決できない課題のある世帯等について、①相談できる人や場所の有無、②相談できる人や場所の認知、③解決に至らない課題分析について検討が必要	・複合的な課題をもつ世帯が相談できる体制をつくる ・解決に至らない課題を検討する仕組みを作る	
16	令和2年 1回	各自治会への応援を求める。日頃、関心が薄い人や交流がない人への対応を考える。各担当部所のチームワークが必要。	・地域住民が自治会へ応援を求める必要がある ・課題解決は、各担当部のチームワークが必要	・自治会へ関心が薄い人や地域で交流がない人への対応を検討する	
17	令和2年 1回	包括支援センターと薬剤師会間で認知症地域課題検討ケア会議を3回ほど行っている。その中で取り組んできたものをベースに会員薬局にも広げていくことを考えているが、個人情報の問題からなかなかもう一歩踏み出せないのではという意見が当薬剤師会の委員長から出た。個人情報保護の問題や同意の必要性などの問題をどうクリアしていくかは今後の課題ではあるが、薬剤師会としても、地域で活動するうえで、今後も取り組んでいきたいと思うし、ぜひ活用してほしい。保険薬局が主流となる以前の薬局は、地域に根差した街の困りごと相談の場であったことを踏まえ現行保険薬局薬剤師も取り組むべき課題として挙げている。	・個人情報保護の観点から、地域課題検討ケア会議の情報共有ができない	・地域に根差した困りごとの相談の場として薬局の活用を図る	
18	令和2年 1回	地域課題克服と孤立を防止するため、ケア会議がますます充実してほしい。そのためにも参加者として「参加しがいい」が感じられるようにすることが大事と思う(例えば地域課題を解決しているという実感等)。		・地域課題克服と孤立を防止するため、地域ケア会議の充実が必要	<b>【実現のための手法】</b> ・参加者が地域課題を解決しているという実感等が感じられるようなケア会議の開催
19	令和2年 1回	個別支援・地域課題検討ケア会議の分析は機能していることが分かったが、そこで解決できなかった課題は上のレベルで検討できているか検証はできているのか。	・個別支援・地域課題検討ケア会議で解決できなかった課題の検証が必要		